

## 5. 福井の幸福と希望について

福井県副知事

満田 誉

「福井の幸福と希望について」というテーマで発表させていただきたいと思います。

福井県の人口は大体80万人です。  
100万以下の県というのは全国で確か  
9つあったと思いますが、そのうちの  
1つで小さい規模でございます。

健康長寿先進県で、お年寄りでも非  
常に元気で、介護にならずに元気であ  
ります。

子どもの学力・体力がトップクラス  
です。学力だけでなしに体力のほうも  
ということです。

優れた雇用環境にあります。これは農林水産業等も含めてですが、工業類や農林水産業のバランスがとれています。働く場所が非常に多種多様にあるということです。

家族・地域のつながりがあります。3世代同居の割合が非常に高く、現時点で全国2位です。あるいは3世代で近くに住んでいるということで、地域や家族のつながりが大変濃いということです。3世代で同居しますので、共稼ぎ率が非常に高く、全国1位です。

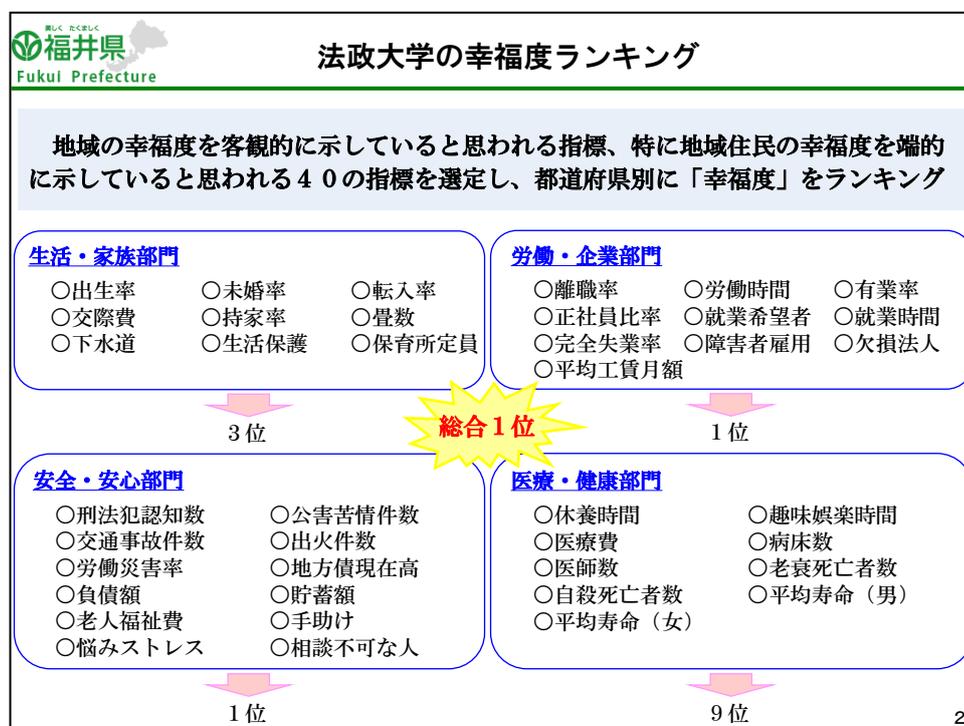


世帯の収入は全国2位です。おじいちゃん、おばあちゃんが子どもを見ているので夫婦は働くことができます。おじいちゃん、おばあちゃんも子ども、孫の面倒を見るかたわらで農業はきちんとしています。早い話がよく働く一家であるということでございます。

ただ、あとで申し上げます幸福度のランキングが高いということですが、何か幸福度を高めるがためにもものすごく特別なことを取り立ててやっているかという、これは私の主観的な見方、個人的な見方ですが、取り立ててそういうことをしているということではありません。言ってみたら、恐らく日本の各地にあった昔ながらの生活のよい部分、あるいは働いたり、休んだり、勉強したりというような、そういうバランスのとれた生活をずっと長く続けてきたのだらうと思います。つまり、基本に忠実であり、地方の生活というものを忠実に守ってきたという、そういう気がいたします。

その1つのあらわれが、法政大学の坂本先生がいくつかの指標を使って総合平均点を算出してみたところ、都道府県別の「幸福度ランキング」が全国で1位になったというものでございます。

実は、旧経企庁が1990年代に発表していただきました新国民生活指標、これは豊かさの指標と言われていたようですが、これでも平成6年から5年連続で全国1位でありました。幸福度に近い話ですが、指標をとってみると、豊かな生活をしているのではないだろうか、あるいは、暮らしやすい地域とよく言われます。暮らしやすい地域ということで、取り上げられることがよくございます。



この坂本先生の幸福度のランキングをみると、大きく分けて4つの分野で測っており、合計で40の指標を選定して総合の平均点を出してくださっています。

1つが、労働と企業の部門です。つまり働く部門なわけですが、特に目立つところを言いますと、失業率は低いほうから2番目です。正社員の比率は高いほうから3番目です。それから障害を持った方々も雇用しておりまして、障害者雇用率は全国2位です。ということで、働く面でいい結果が出ているというのが、1つ大きな要因としてございます。

もともと福井県は昭和20年代から30年代にかけて繊維産業が大変盛んでした。今も県内に一部、二部の上場企業がありますが、こうしたところは繊維から生まれてきたところが多くあります。化学製品であったり、あるいは今でも繊維で頑張っているところもありますし、あるいは繊維から出てきた界面活性剤のトップシェアという企業もあります。多くのところがそうした技術開発を経て、企業が成り立っているということがございます。

それから農業でいきますと、県内は細長い形ですけれども、水に困る地域が少ない。つまり雪国ですから、積雪があって、どこの川をとっても水量が豊富です。少し台地になっているところもありますが、残りのところは川から水をとって農業ができます。そういう恵まれた環境にあるということもあり、農業でもよく働くことができます。



福井県  
Fukui Prefecture

## 福井県の暮らしやすさ

幸福度ランキングからわかる福井県の暮らしやすさ

**○優れた雇用環境・経済的に安定した家庭**

- ・有効求人倍率が20か月連続日本一、失業率が低く、正社員比率が高い
- ・新卒者や新卒未就職者の就業支援、障害がある方への支援の成果
- ・家族の助け合いによる夫婦共働き（世帯収入が高い（全国2位））

**○優れた子育て環境**

- ・6年連続で合計特殊出生率が増加
- ・結婚から出産、子育てといった一人ひとりのライフステージを対象とした切れ目ない子育て応援の成果



優れた雇用・子育て環境の実現

3

宣伝になりますが、コシヒカリというのは、東京では新潟あるいは富山のお米と思われていると思いますが、もともとは福井県の試験研究機関で開発されたものです。ただ作付面積が圧倒的に違うので、いまや新潟県ですが、もとはといえば福井県というのが県民のひそかな自慢です。



そうした形で農業、農業所得も含めて、伝統産業、それ以外でも眼鏡のフレームの9割は本県産です。これは明治期に先見の明のある人がおられて、日本人はこれから義務教育制度が行き届いて、よく勉強するようになる。すると、子どもたちも本を読むようになっていくから、日本人はきっと目が悪くなるに違いない。しかも、眼鏡のフレームは針金を曲げて固めたらいいんだから、冬の家内工業によからうということ、日本人はこれから眼鏡が多くなると見た人が導入しました。これは本当の話ですが、そういうことを思った人が明治期に導入して、鯖江という市で発展していきました。こういう産業ですが、今はだいぶ中国に押されているのですが、現在でも眼鏡フレームであり、またそこから発展していった部品づくりから発展していったチタンの加工技術で、医療用のいろいろな器具に発展していったところがございます。医療用の精密機械の部品になっていったようなこともあります。そういうようなことで、100年以上のそうした近代工業の産地となっています。いろいろと東南アジア等の影響もありますが、雇用環境はなんとか維持しているという状態でございます。

生活・家族部門でいうと、出生率が高いです。それから保育所の整備率。待機児童というのがありません。ここの辺は行政の施策ですが、待機児童というのはなくて、なおかつ児童クラブも全校区に配置してくださっています。これはまさに基礎的自治体であります市町村のほうが大変に頑張ってくださっております。放課後こどもクラブを全小学校区で設置するというので子育て支援も行政のほうも頑張っている。それから、働く場所があって所得があるということの裏返しとして、生活保護の率は極めて低くなっています。それから持ち家率も高い。そういうことで、生活環境、所得、そして雇用、生活という環境が整っているということは大きくあるかなと思います。

次にそうやって働くので、医療関係でいきますと、医療や健康というものも非常によい環境にある。

そして安全・安心。これは犯罪の件数も少ないですし、それから共働きで、しかも3世代で暮らすということで、貯蓄額が多いです。

それから主観的な要因として、悩みやストレスが少ない。これは何かデータがあるそうです。たしかに県庁の仕事も、これはいいことだという意味で申し上げるわけですが、悩みやストレスなしに県庁も頑張っておりますので、仕事ぶりとしても何かわかる気

はいたします。

結果として、平均寿命も高いですし、それから介護のお世話にならずに済む高齢者の比率が非常に高い。要するに、よく働いて体を動かして過ごしていけば、よい循環が生まれてくるというのが率直な実感でございます。



福井県  
Fukui Prefecture

## 福井県の暮らしやすさ

**幸福度ランキングからわかる福井県の暮らしやすさ**

**○地域防犯力による安全・安心**

- 刑法犯認知件数が9年連続減少
- 地域の人と人とのつながりが強く、地域総ぐるみの見守り活動などの成果

**○健康で長寿な高齢者が多い**

- 要介護認定を受けていない高齢者（65歳～74歳）96.6%（全国2位）
- 豊かな福井の食生活に加え、がん予防・治療の両面からの政策、介護予防や高齢者が元気に暮らすための政策の成果



**安心して健康に暮らすことができる環境の実現**

4

1つだけ加えますと、子どもさんの学力、体力が高いということの中の1つとして、体力のために休み時間、学校の2時間目と3時間目の間の休み時間を少し多めにとっており、その間、全校において校庭で縄跳びとかをしています。そういった努力もあるようでございます。

それから、家庭の環境でひとつ東京や大阪と違うと思うのは、民放のテレビの数が2波しかないことです。これは本州では極めて少ない。確か県別で、しかも県庁所在都市で2波しかないというのはかなり少なかったと思います。九州に行くと、例えば佐賀は1波ですが、実は、全部福岡の電波が入ってくるので、佐賀の場合は全部で5波見られるわけです。福井の場合は他の系列が入らずに、テレビは2波です。その分だけ、それこそ見たい怪獣の番組やアニメは見られていないかもしれないのですが、でも別な形でよい時間を過ごしているのではないだろうかという気がします。決して良し悪しではなくて、そういう生活環境であるというのは、東京側にいると余り想像しにくいかなと思います。

結果として、子育て支援をしていることもあるのですが、6年連続で合計特殊出生率が増加している県でございます。結婚から出産、そして子育てといったところまで切れ目なく支援をしようとしているところがございます。

その昔、貯蓄率が高いと言った時によく言われたのは、お嫁さんに出すときに、物すごく嫁入り道具が豪華である。それをガラス張りのトラックに乗せて持たせるというようなことが、20年前にはありませんでした。このごろ余り見ないですが、娘さんが3人いらっしやると大変だというのはよく聞いた話です。それは別に女性側だけが大変なわけではなくて、男性の側はそれが入る家を用意しろという意味です。それは子どもの代にきちんと親から生活の基盤をつなぎ、その子どもたちはまた同じことをしていくわけなので、次から次に、次の代に生活の基盤をつなぐという意味で、まさに私は幸福度を高める仕掛けだったのだろうと思っています。そういうことで、ともかく子育て環境というものも整備されています。それは個々人の努力も、行政もしているということだと思っています。



それから、安心して暮らせる地域の防犯です。これは特にコミュニティが残っているという現われだろうというように思っております。そして、おじいちゃん、おばあちゃんたちもよく働いて元気であるということだと思えます。大変名誉なことに、法政大学、あるいは東北大学のこうした指数でも高い評価を頂いております。



## 福井県の「幸福度」

《生活の質の客観的データ》

- 法政大学の「幸福度ランキング」（平成23年11月） ⇒ **福井県は総合1位**  
「生活・家族」「労働・企業」「安全・安心」「医療・健康」の4部門40指標
- 東北大学の「高齢者福祉指数」（平成23年9月） ⇒ **福井県は総合2位**  
「心身の健康」「経済状況」「社会参加」「個人生活」「安全・安心」の5分野15指標



福井県は  
幸福度が高い

《個人の実感（主観的な幸福度）》

- 県民へのアンケート（平成21年6月） ⇒ **約8割の県民が現在の暮らしに満足**
- 東京大学の福井県民へのアンケート（平成23年3月）
  - ⇒ **約7割が暮らし向きは普通以上と回答**（全国平均：約4割）
  - ⇒ **16.7%の人が暮らし向きにゆとりがあると回答**（全国平均：4.8%）

5

では、満足しているかということで行きますと、多くの方が現在の暮らしには満足している、あるいは暮らし向きは普通以上であるというような回答を得られております。

一歩進んで、まだ進行中の話を最後に1点だけ加えます。

「ふるさと希望指数」と言いますが、これは東京大学の社会科学研究所の先生方が、ずっと県内の調査を続けてくださっている最中でございます。その希望学の知見の活用やアンケート調査を行い、将来に「希望」を持ち「行動」を起こせば「幸福」が得られるといったサイクルがあるのではないかと見地から、どういうことに希望を持っているかということを目指して指標化しています。決して指数ではないですが、こういうことに希望を持って、人々が暮らしているということを目指してとらえようということ、今進めているところです。

これは本県だけでなく、12の県で相談しながらこうした指標を考えており、近々1回目の「こういう要素ですよ」というものを公表しようと思っています。希望につながる要素というものを抜き出しにくいというものです。そうすると、行政のほうも希望を支えるような施策ができるということで、希望につながる要素というのを今洗い出しています。こういうことが人々の希望につながって、そのために努力するのではないだろうか、そういう作業をしております。またこれにつきましては、ぜひ皆様のご指導を、そしてご意見を賜れば幸いです。



福井県  
Fukui Prefecture

## ふるさと希望指数 (LHI) の概要

---

**研究の趣旨・目的**

- より良い未来を実現するためには、人々が、**将来に「希望」を持ち、具体的な「行動」を起こす**ことが必要
- 人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかを明らかにし、概念的な「希望」を見える化
- 「希望」を政策課題とし、人々の「希望」を高める要素に働き掛けを行う政策づくりにつなげる

**ふるさと希望指数 (LHI) とは**

- 現在の暮らしに対する満足感などから得られる「幸福」だけでなく、より良い未来を実現するため、**人々の「希望」につながり、「行動」によって達成することができる要素を抽出したもの**

※ 統計数値などにより数値化したものではない

**ふるさと希望指数 (LHI) の構成 (4,000人に及ぶアンケートから「希望」につながる要素を抽出)**

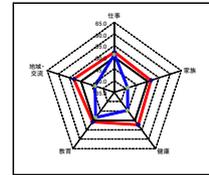
<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">仕事</p> <p style="font-size: x-small;">やりがいのある仕事に就き、一定の所得を手にする 【希望につながる主な要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 希望している</li> <li>○ 雇用の確保・従業員として働いている</li> <li>○ 所得が十分な収入が得られる</li> <li>○ 仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">家族</p> <p style="font-size: x-small;">お互いに信頼し、お互いから支えあっている 【希望につながる主な要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結婚して新しい家族を持つ</li> <li>○ 子育てが楽</li> <li>○ 家族でコミュニケーションがとれている</li> <li>○ 夫婦のワークライフバランスがとれている</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">地域・交流</p> <p style="font-size: x-small;">地域に魅力を感じ、社会参加や地域活動が盛んで、 暮らしが豊かになる【希望につながる主な要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会参加の機会に恵まれている</li> <li>○ 子どもが地域行事に参加している</li> <li>○ 学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している</li> <li>○ 犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である</li> </ul> </div>
<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">福祉</p> <p style="font-size: x-small;">子どもが安心して、健康や元気に暮らしている 【希望につながる主な要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 病院やケアなどが充実している</li> <li>○ 医療費が負担が軽減している</li> <li>○ 子どもの福祉サービスが充実している</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;">教育</p> <p style="font-size: x-small;">学びや成長、社会性や個性が伸ばされている 【希望につながる主な要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの学力が高い</li> <li>○ 子どもの意欲や社会性が高い</li> <li>○ 子どもが夢や目標を持って学習に取り組んでいる</li> <li>○ 大学等の高等教育機関で学ぶ</li> </ul> </div>	

6

「現状の水準」と「向上（変化）」の複眼的視点からデータ化

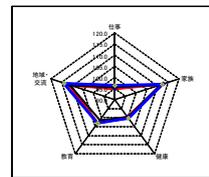
分野	希望につながる要素	参考統計
仕事	就業している	就業率
	正規の職員・従業員として働いている	正規就業率
	世帯当たりの収入が高い	実収入（勤労者1世帯当たり1か月）
	仕事のためのスキルアップや自己啓発を行っている	職業訓練・自己啓発実施率
家族	結婚して新しい家族を持つ	結婚率
	子どもを持つ	合計特殊出生率
	家族でコミュニケーションがとれている	子どもの家族交流率
健康	夫婦のワークライフバランスがとれている	家庭内ワークライフバランス率
	病気やけがなどがなく健康である	健康実感率
	健康に長生きする	自立調整健康寿命〔0歳以上〕
	健康の維持に努めている	健康診断受診率
教育	子どもの基礎体力が高く元気である	子どもの体力
	子どもの学力が高い	子どもの学力
	子どもの道徳心や社会性が高い	子どもの道徳心・社会性
	子どもが夢や目標を持って物事に挑戦している	子どもの夢・目標・挑戦力
地域・交流	大学等の高等教育機関で学ぶ	大学等進学率
	社会貢献活動に参加している	ボランティア活動の年間行動者率（15歳以上）
	子どもが地域行事に参加している	子どもの地域行事への参加率
	学校や職場だけでなく、様々な人々と交流している	交際時間（15歳以上）
	犯罪や交通事故が少なく、安全・安心な地域である	刑犯認知件数＋交通事故発生件数

統計数値（偏差値）



	仕事	家族	健康	教育	地域・交流
地方	52.3	51.5	52.4	50.5	53.1
都市	51.2	41.1	44.7	48.5	43.6
全国平均	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0

変化率（基準年を100として表示）※基準年は昭和30年



	仕事	家族	健康	教育	地域・交流
地方	94.9	112.6	99.5	103.1	111.3
都市	96.4	112.2	100.3	103.0	113.8
全国平均	95.6	111.2	99.8	101.3	111.0